四月鹿ノ台教室誌上句会　優秀句

お題「顔」（連記）山神春代選

昼の顔入れ歯外せば夜の顔　宏　樹
似顔絵をそっくりに描いてお目玉　ちさと
イヤなこと今朝も流して顔洗う　充
我が家では犬が一番デカイ顔　乃り子
丸顔が僕の好みと妻に嘘　義　雄
よし悪し顔ひろすぎて苦労増え　幸　男
老人の皺人生の浮き沈み　ミノル
遺影までぶっちょう面の斜め撮り　正　清
古希過ぎて鏡の顔が愛おしい　アキラ
老けるはず顔は年中吹きさらし　英　二
何見てる眠る赤子がほほえんだ　登　美
スマイルで痛い所を突いて来る　千　楽
いい顔になったね苦労したんだね　広　子
年重ね母似といわれ誇らしい　哲　子
ポーカーフェースにひそんでいる野心　よう子
秀　夢の中慈愛に満ちた顔がある　えいじ
軸　のぞきこみ目と目が合ってご挨拶　春　代

お題「きっと」奥村義雄選

めぐみちゃんまだ待ってるよ天国で　乃り子
やっぱりね自信なさげに言うきっと　英　二
指切りもきっといつかも口ばかり　春　代
コロナ禍で固い約束反古になる　登　美
来年の花見はハグし祝盃を　乃り子
寝首かく奴は決まって傍にいる　千　楽
神頼みきっときっとと念を押し　ミノル
あの人が一緒じゃどうせ午前様　広　子
葉桜のもつれはきっと千の風　ちさと
幸せにしますと正座崩さない　よう子
きっとだよと明日を小指にからませる　よう子
秀　きっとねと交わした思いセピア色　哲　子
軸　極楽にきっと私の指定席　義　雄

お題「研ぐ」八木哲子選

ほほえみの裏で悪魔が爪を研ぐ　登　美
研ぎ澄まし真っ向勝負王手なり　春　代
米を研ぐ妻いて今日も恙ない　アキラ
朝帰り牙をむく妻爪も研ぐ　幸　男
研ぎ澄ます耳にささやく落ち椿　広　子
無洗米どこまで主婦を楽にする　乃り子
研ぎ出して刃丈にうかぶ逆恨み　正　清
売り言葉鼻で笑って米を研ぐ　広　子
漆研ぐ無心の先に光あり　ミノル
川柳を詠んで私のさび落とし　アキラ
語彙不足五感研げよと諭される　よう子
秀　チャレンジと認知防止の脳を研ぐ　幸　男
軸　技みがき上へ上へと見る景色　哲　子

自由吟（共選）前田幸男選

生ゴミを埋めて大根グラマラス　ちさと
散り椿愛でる前から夫が掃く　広　子
なかなかに寒さ取れない春暦　登　美
車内にて老い譲り合い席を立つ　宏　樹
花びらにまみれた犬のフン拾う　英　二
梅終わり桜見ごろにさす日傘　春　代
叱り飛ばしハグと涙でフォローする　義　雄
一休み置いてきぼりのとわの旅　ちさと
春泥も我が住み家なり蝌蚪泳ぐ　登　美
逃げ水をヒッチハイクで追いかける　正　清
デイサービスチグハグ同士円い笑み　乃り子
秀　自粛中たまったグチの長電話　哲　子
軸　常備薬箱の中にはカップ酒　幸　男

自由吟（共選）澤山よう子選

変異株男女見分ける特技持つ　幸　男
散り椿愛でる前から夫が掃く　広　子
耳もとでささやく愛にマスク邪魔　義　雄
生ゴミを埋めて大根グラマラス　ちさと
自粛中たまったグチの長電話　哲　子
妻寝込みひとつ覚えのおかゆ炊く　えいじ
常備薬箱の中にはカップ酒　幸　男
デイサービスチグハグ同士円い笑み　乃り子
春泥も我が住み家なり蝌蚪泳ぐ　登　美
逃げ水をヒッチハイクで追いかける　正　清
叱り飛ばしハグと涙でフォローする　義　雄
秀　満開のサクラ根の恩忘れない　アキラ
軸　お帰りと言える普通をつなぐ日々　よう子

五月誌上句会　投句〆五月十日　各二句
「子供」（連記）五十嵐千楽選
「せっかく」森里えいじ選
「うらやむ」川崎ちさと選
自由吟（共選）水間充選　原広子選
＊メール又は封書　アキラ迄